

令和3年度の関東六華会「散策の会」は、コロナ禍の関係で正式行事として開催する事ができなくなり、有志親睦行事として開催することになりました。今回は、歴史散策「武田勝頼の最後の地を訪ねて」をテーマとして、11月26日（金）に抜群の晴天下で実施されました。

JR大月駅前に9:15に集合し、菅原さんが手配してくれたレンタカー（7人乗り）で移動開始。

「勝沼氏の館跡」→「国宝・柏尾山・大善寺」（真言宗智山派・ぶどう寺・葡萄薬師）→「勝沼・柏尾古戦場跡（近藤勇）」→昼食「いしはら」→「旧甲州街道・駒飼宿」→ 勝頼敗走の地「景德院（武田氏終焉の地）」→「笹一酒造」→「リニア見学センター」→「岩殿城跡」→17:00「大月駅」の行程で散策しました。

参加者は、石堂さん、桜井さん、篠原さん、菅原さん、大澤さん、伊藤さん、三橋の7名でした。

最初の散策地「史跡 勝沼氏館跡」は、15～16世紀に営まれた有力武将の居館跡で、武田信虎の弟・信友が勝沼衆を率いて拠点としていた地ととのこと、武田氏による甲斐国支配の重要な拠点であり、当時の土塁や堀、屋敷名などが表示された区画があり、確かに大きな屋敷群で色々と整備されていたことが解りました。見晴らしの良い高台の地にあり、国を治めるとはいかなることかと、納得させられました。

元亀4年4月（1537）、武田信玄が死去した後、信玄の嫡男・武田勝頼が1575年5月の「長篠の戦い」で信長・家康連合軍に大敗し、名将であった家臣の多くを失い急速に勢力が衰退し、その後、織田、徳川、北条の三軍による甲州征伐で勝頼は敗走、武田家滅亡に向かう流れをたどりしました。

私たちは車で各地を巡りましたが、当時は延々と馬や徒歩で急峻な山間の旧街道を移動した勝頼一行の事を考えると、もの凄く大変な労力がある移動であることを実感する事ができました。特に同行した婦女子（勝頼夫人・北条夫人や侍女の人たち）は大変な災難であったと思いました。



大善寺

勝頼が途中逗留した「大善寺」は、養老2年（718）僧行基が開創した寺で古刹ならではの悠然とした空間を有し、重厚な構えの「山門」、関東で最古の木造建造物である国宝の本堂（薬師堂）、本尊の薬師如来像（葡萄薬師・手に葡萄を持っている）、日光・月光菩薩像、厨子両脇にある「十二神将立像」が安置されていて身近に見ることが出来感動しました。当時「大善寺」には、一族の「理慶尼」（勝沼信友の妹、信玄のいとこ）が出家しており、勝頼一族が敗走の折、一族を招き入れて歓待したとあります。その後、勝頼興亡の様子を「理慶尼記（武田滅亡記）」として綴り「大善寺」に残しています。



後列：伊藤（s38 電）、菅原（s45 機）、三橋（s41 工）

前列：大澤（s43 電）、石堂（s39 土）、篠原（s43 土）、桜井（s38 電子）

また、江戸時代には、近藤勇を隊長とする「甲陽鎮撫隊」が新政府軍の東進を阻止する目的で甲州街道を西へ進み、勝沼に布陣し「大善寺」周辺に兵員を配置し、勝沼・柏尾坂で戦ったことから、その記録絵に「大善寺」山門が描かれていました。

武田氏終焉の地である「景德院」は勝頼らが自害した後、徳川家康が勝頼と家臣の菩提を弔うため創建した寺で、天正16年(1588年)伽藍が完成。その後幾度か火災に遭い荒廃したが、昭和53年(1978年)に本堂などを再建し「武田氏終焉の地」として人気を集めているとのこと。閑静な土地に在りさっぱりとした寺と敷地でした。(享年・勝頼37歳、夫人19歳、信勝16歳)。

最後の「岩殿城跡」では時間の関係で(疲れが出てきたので)頂上まで上ることなく登山口でお終いにしたが、頂上を見上げると相当急こう配の所で、よくこんな所に城を建てるものだと感心しました。

その後に「笹一酒造」に寄り、美味しいお酒、ワインなどお土産を購入し、「リニア見学センター」でリニア新幹線の模型や試験走行を見学しました。

移動している時に山間部から見える富士山の美しさ、昼食処・ほうとう「い



景德寺と墓碑(勝頼・夫人・信勝)



武田勝頼像(甲斐大和駅)の前で



轟音と共に一瞬で過ぎる

しはら」の紅葉の美しさと「ほうとう鍋」の美味しさに感動しました。

楽しい散策を終えることが出来たのども乾き、疲れをとるために駅前の居酒屋で締めと慰労の一杯会を開き美味しい生ビール



を飲んで安らぎ、充実した一日でした。

最後に、今回の行程プランナーであり精密な資料を作成し、ガイドを務め各地でご説明頂いた桜井さん、レンタカーを手配し皆を乗せて運転まで担ってくれた菅原さんに感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。そして、皆さんお疲れさまでした。